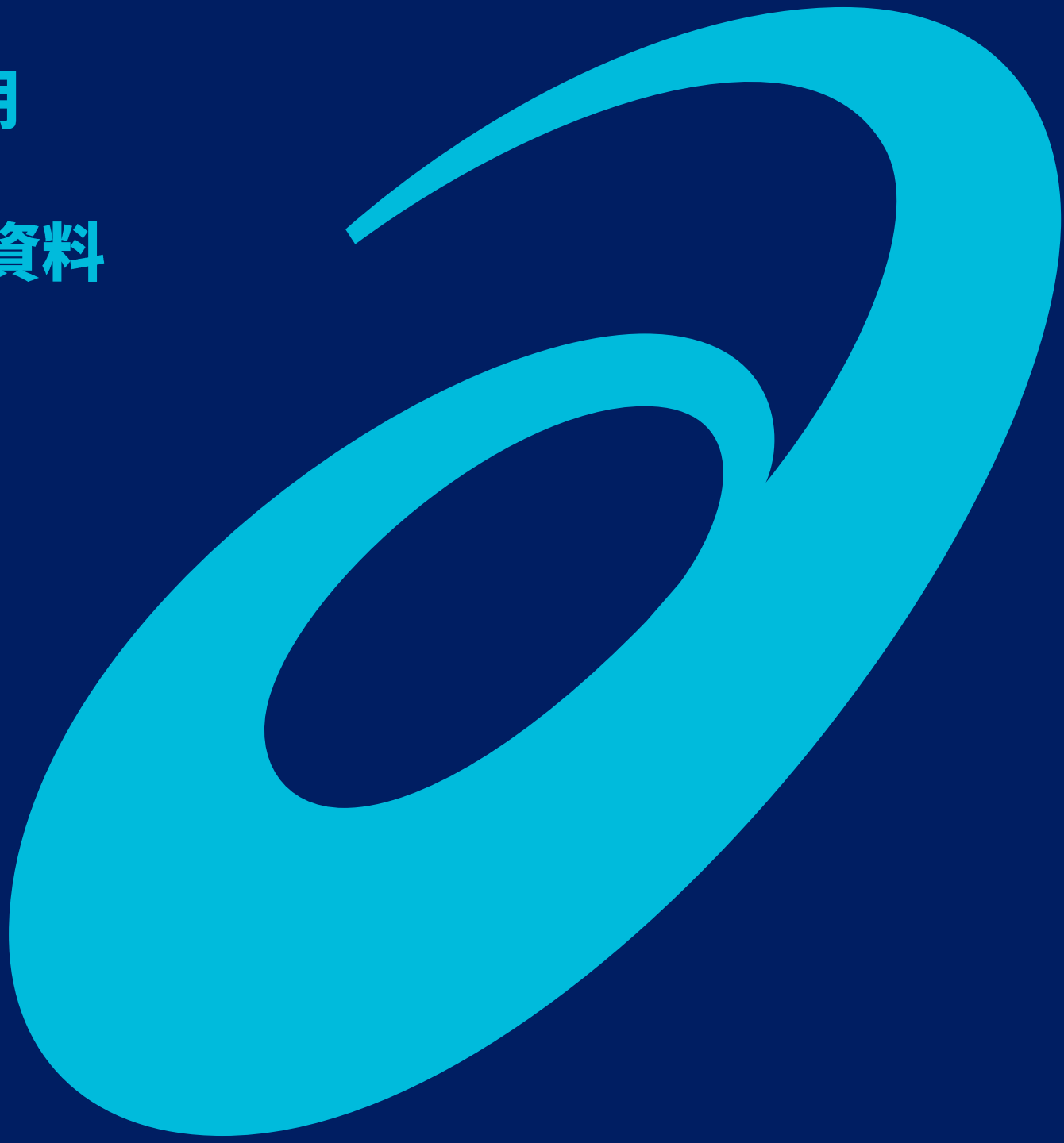


**2020年12月期
第1四半期
決算補足説明資料**

**株式会社アシックス
2020年5月22日**



1. 連結業績
2. 連結経営成績（カテゴリー別）
3. 連結経営成績（地域別）
4. 連結財政状態
5. 今後の取組み
6. 補足

DISCLAIMER 将来見通しに関する記述についての注意

このプレゼンテーション資料に記載されている、当社の現在の計画、見通し、戦略、確信などのうち、歴史的事実でないものは将来の業績に関する見通しであり、これらは現在入手可能な情報から得られた当社の経営者の判断に基づいています。したがって、これらの業績見通しのみに全面的に依拠することは控えてくださいますよう、お願いいたします。実際の業績は、さまざまなリスクや不確実性により、これらの業績見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。実際の業績に影響を与えるリスクや不確実性には、当社の事業を取り巻く経済情勢、さまざまな競争圧力、関連法律・法規、為替レートの変動などを含みます。

ただし、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。

- ✓ 新型コロナウイルスの影響（都市封鎖等）による直営店舗、得意先店舗の臨時休業等があり、減収減益。
- ✓ 2月累計までの売上高は北米・欧州・オセアニア等において計画比プラス。
- ✓ 中国の直営店舗は1月中旬より大半が臨時休業。但し、3月後半にほぼ全て再開。
- ✓ ECは約6割のプラス成長。
- ✓ 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会が延期となるも、一部費用が先行。今後のマーケティング投資を見直し。

新型コロナウイルス感染拡大に伴う影響

生産

- ✓ 一部の工場で政府の方針に従い稼働率の低下はあるものの、生産面での影響はなし。

直営店

- ✓ 日本 : 3月中旬より臨時休業。
- ✓ 米国 : 同上。
- ✓ 欧州 : 同上。
- ✓ 中国 : 1月中旬より大半の店舗で臨時休業となるも、3月後半にほぼ全ての店舗で営業再開。

販売

- ✓ 都市封鎖等による得意先店舗の臨時休業もあり、ホールセール売上高が減少。
- ✓ EC売上高は計画比、前期比共に大幅に伸長。

1. 2020年12月期 第1四半期連結業績

- － 2020年12月期第1四半期 概要
- － 連結決算ハイライト
- － 連結売上高内訳（カテゴリー別）

売上高

前期比：△134億円 △13.5%（為替影響除く増減 △105億円 △10.7%）

◆ 新型コロナウイルスの影響により減収。

- ✓ 2月累計では、北米・欧州・オセアニア等において計画比プラスで推移するも、新型コロナウイルスの影響により第1四半期では計画比もマイナス。
- ✓ 一方、ほぼ全ての地域でECは好調に推移し57%のプラス成長。

営業利益

前期比：△69億円（為替影響除く増減 △68億円）

◆ 8億円の営業損失。

- ✓ 減収影響に加えて、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の関連費用の発生により営業損失。

四半期純利益

前期比：△45億円（為替影響除く増減 △46億円）

- ✓ 欧州において経営合理化に伴う特別退職金を計上(年間効果約5億円)。
- ✓ 米国における法人税の還付を計上。

その他

◆ 店舗休止等損失の計上。

- ✓ 新型コロナウイルスに対する政府・自治体からの要請等による直営店の店舗臨時休業期間の固定費を特別損失に計上。

連結決算ハイライト



(単位：億円)

	2019年 (FY19 Q1) 実績	2020年 (FY20 Q1) 実績	前期比 上段：増減額 下段：増減率
売上高	987	853	△134 △13.5%
売上総利益	461	402	△59 △12.8%
売上総利益率	46.7%	47.1%	+0.4ppt
販管費	400	410	+10 +2.9%
販管費率	40.4%	48.2%	+7.8ppt
営業利益	61	△8	△69 -
営業利益率	6.3%	△1.1%	△7.4ppt
経常利益	68	△31	△99 -
特別損益	0	△10	△10
親会社株主に帰属する 四半期純利益	43	△2	△45 -
DTC売上高	253	229	△24 △9.5%
DTC売上高比率	25.7%	27.0%	+1.3ppt

	FY19 Q1	FY20 Q1	増減額	増減率
海外売上高	701	595	△106	△15.1%
海外比率	71.1%	69.8%	-	△1.3ppt

為替影響	△29
為替影響除く 連結売上高増減	△105
	△10.7%

<参考：平均為替レート(円)>

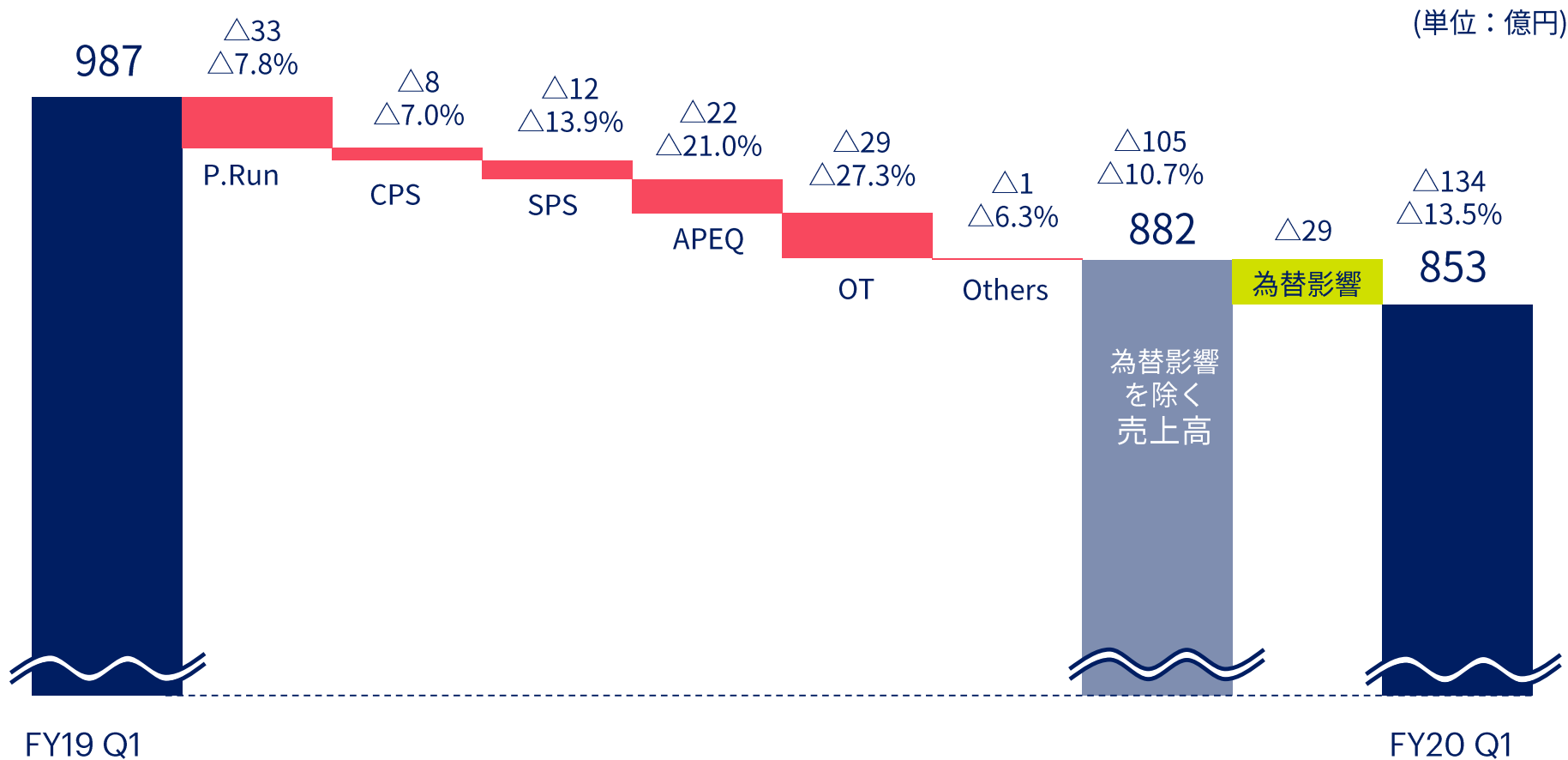
	第1四半期(1~3月)	
	19年実績	20年実績
1ドル	110.28	109.01
1ユーロ	125.65	120.58
1人民元	16.35	15.58

- ✓ 粗利益率は0.4ポイント改善。
- ✓ 減収影響に加えて、大型イベントの関連費用の発生により営業損失。
- ✓ リテールは減収となるも、ECが大きく成長した結果、DTC比率は27%。

連結売上高内訳（カテゴリー別）

- ✓ 全てのカテゴリーでECは2桁成長。
- ✓ 今後、マーケティング投資をECに集中させ成長を加速させる。

上段：増減額
下段：増減率



2. 2020年12月期 第1四半期連結経営成績 (カテゴリー別)

- － カテゴリー別連結売上高
- － カテゴリー別業績

カテゴリー別連結売上高

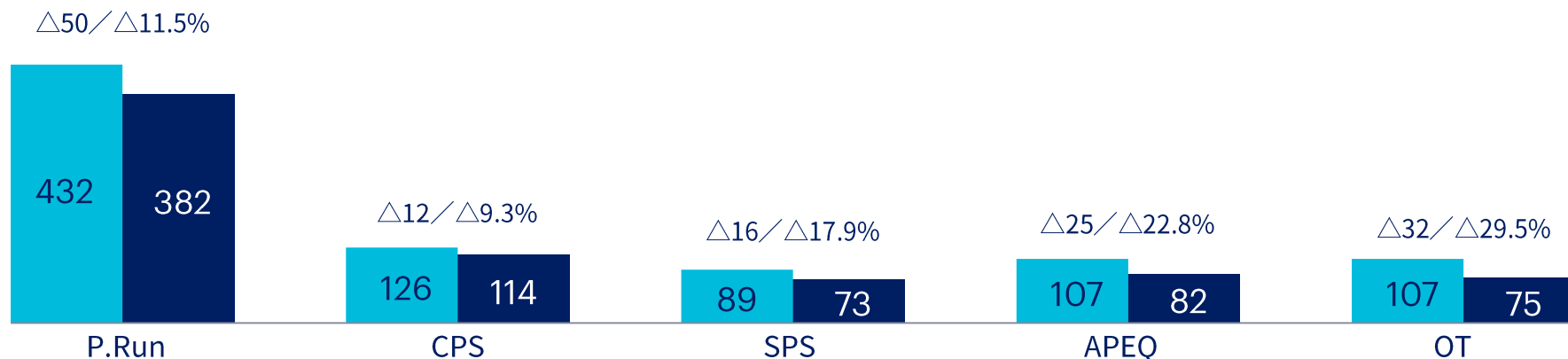


<売上高>

増減額／増減率（邦貨）

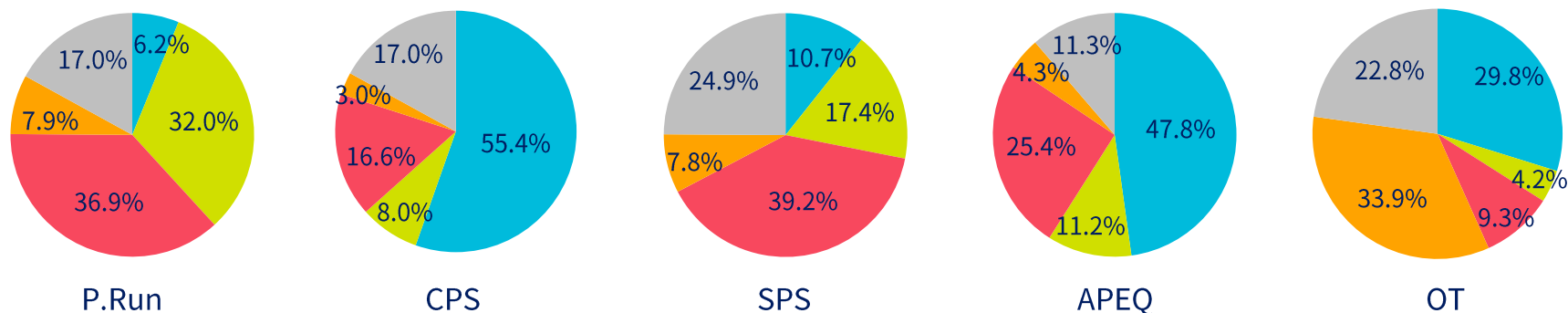
■ FY19 Q1 ■ FY20 Q1

（単位：億円）



<カテゴリー別地域別売上高構成>

■ 日本 ■ 北米 ■ 欧州 ■ 中華圏 ■ その他



※一時的イベントにおける影響を除いた数値で表示しております。



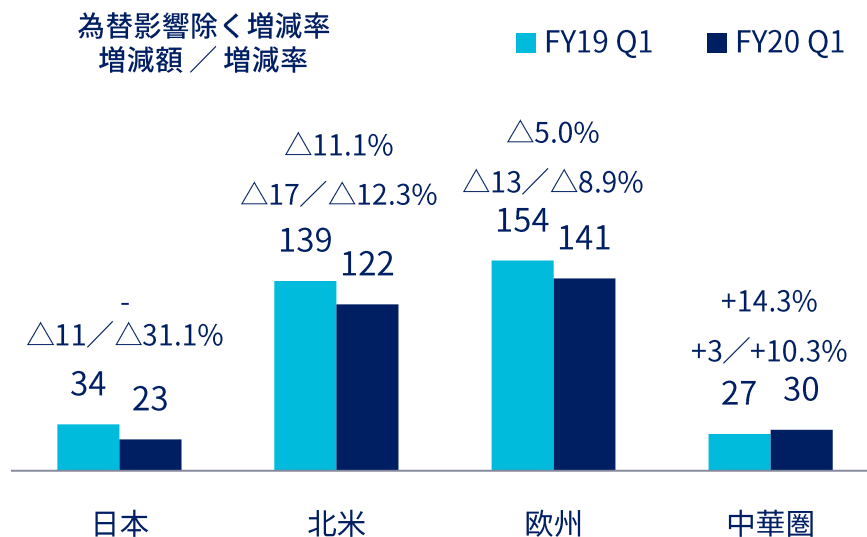
(単位：億円)

<第1四半期業績>

	FY19 Q1	FY20 Q1	前期比 増減額	増減率
売上高	432	382	△50	△11.5%
為替影響除く増減		399	△33	△7.8%
営業利益	18	2	△16	△87.0%
営業利益率	4.3%	0.6%	-	△3.7ppt

※一時的イベントにおける影響を除いた数値を表記しております。
前年も同様に一時的影響を除いた数値に組み替えて算出した数値を表記しております。

<主要地域別売上高>



売上高

前期比：△50億円 △11.5% (為替影響除く増減 △33億円 △7.8%)

- ◆ 2月までは計画比プラス。新型コロナウイルスの影響により中華圏を除くほぼ全ての地域で減収。
- ◆ ECは増加。特に北米、欧州、中華圏では前期比7割増。

営業利益

- ◆ 減収影響により減益。

今後の取組み

- ◆ 新商品の発売時期変更や生産調整等による在庫管理の徹底を進め、販売機会の最適化と在庫消化を推進。
- ◆ マーチャンダイジングの見直し及びデジタルシフトを加速。アフターコロナの需要取り込みを図る。

コアパフォーマンススポーツ (CPS)



サッカースパイク
DS LIGHT

asics

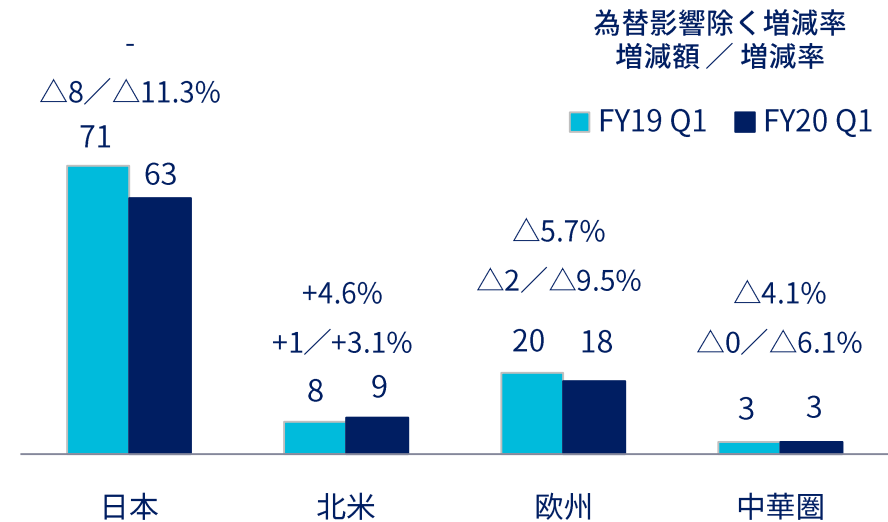
(単位：億円)

<第1四半期業績>

	FY19 Q1	FY20 Q1	前期比 増減額	増減率
売上高	126	114	△12	△9.3%
為替影響除く増減		118	△8	△7.0%
営業利益	6	3	△3	△46.1%
営業利益率	5.3%	3.1%	-	△2.2ppt

※一時的イベントにおける影響を除いた数値を表記しております。
前年も同様に一時的影響を除いた数値に組み替えて算出した数値を表記しております。

<主要地域別売上高>



売上高

前期比：△12億円 △9.3% (為替影響除く増減 △8億円 △7.0%)

◆ 主に、日本における新型コロナウイルスの影響により減収。

✓日本：サッカーが好調だったものの、ホールセール店舗の営業時間短縮等の影響により減収。

✓北米：新たに展開しているゴルフシューズの投入により増収。

営業利益

◆ 粗利益率は改善したものの、減収影響により減益。

今後の取組み

◆ 各種スポーツイベントやクラブスポーツの中止・延期に対応したマーケティング計画の見直し。

◆ 新たな機能を搭載したMETASPRINT (陸上)・METARISE (バレーボール) を6月に市場投入。

スポーツスタイル (SPS)



GEL-QUANTUM 180 5



(単位：億円)

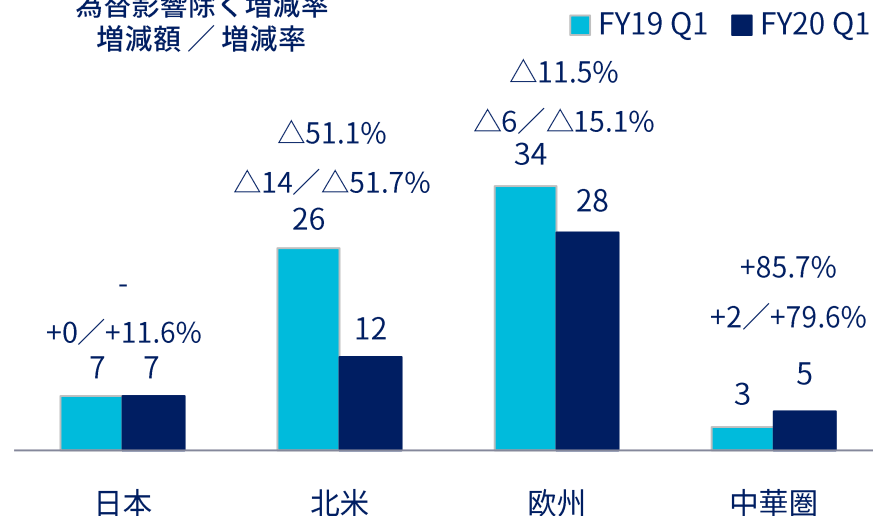
<第1四半期業績>

	FY19 Q1	FY20 Q1	前期比 増減額	増減率
売上高	89	73	△16	△17.9%
為替影響除く増減		77	△12	△13.9%
営業利益	4	△2	△6	-
営業利益率	4.9%	△3.0%	-	△7.9ppt

※一時的イベントにおける影響を除いた数値を表記しております。
前年も同様に一時的影響を除いた数値に組み替えて算出した数値を表記しております。

<主要地域別売上高>

為替影響除く増減率
増減額 / 増減率



売上高

前期比：△16億円 △17.9% (為替影響除く増減 △12億円 △17.9%)

◆ 減収。但し、計画比では欧州、オセアニアがプラスで推移。

✓欧州：前期比は減収の一方、計画比ではQUANTUMシリーズが順調に推移。

✓中華圏：新型コロナウイルスの影響はあるものの、ECが堅調に推移し増収。

営業利益

◆ 減収影響により減益。

今後の取組み

◆ 若い世代に影響力の強いデジタル媒体での販売促進やPR活動等、資源をデジタルに集中させることでマーケティング投資の再配分を実施。

◆ トренд発信地の1つである韓国にて売上堅調。中華圏をはじめ他のアジア圏へ成功事例を共有し売上増加を狙う。

アパレル・エキップメント (APEQ)



RETRO TOKYO

asics
(単位：億円)

<第1四半期業績>

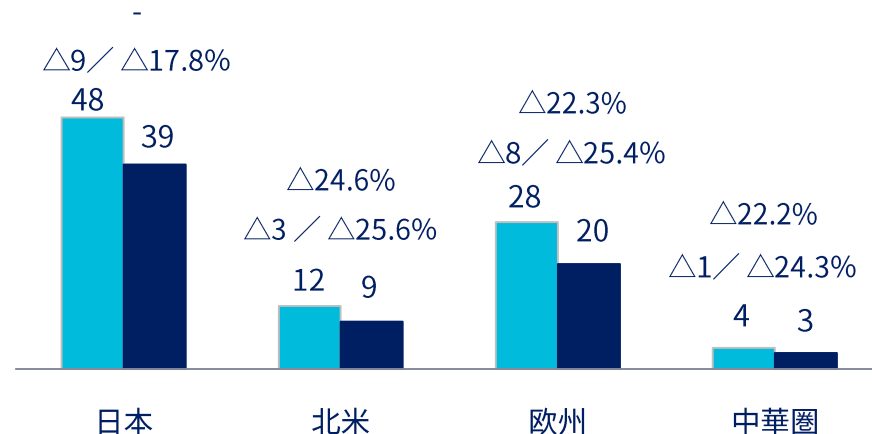
	FY19 Q1	FY20 Q1	前期比 増減額	増減率
売上高	107	82	△25	△22.8%
為替影響除く増減		85	△22	△21.0%
営業利益	赤字	赤字	-	-

※一時的イベントにおける影響を除いた数値を表記しております。
前年も同様に一時的影響を除いた数値に組み替えて算出した数値を表記しております。

<主要地域別売上高>

為替影響除く増減率
増減額 / 増減率

■ FY19 Q1 ■ FY20 Q1



売上高

前期比：△25億円 △22.8% (為替影響除く増減 △22億円 △21.0%)

- ◆ 新型コロナウイルスの影響により減収。
✓ECにおいては前期比、計画比共にプラスで推移。

営業利益

- ◆ 粗利益率の改善及び販管費の減少により赤字幅が減少。

今後の取組み

- ◆ 粗利益率の高いECへマーケティング投資を集中させ利益の改善を図る。
- ◆ 日本を中心に20AW商品の徹底的な仕入抑制を実施。

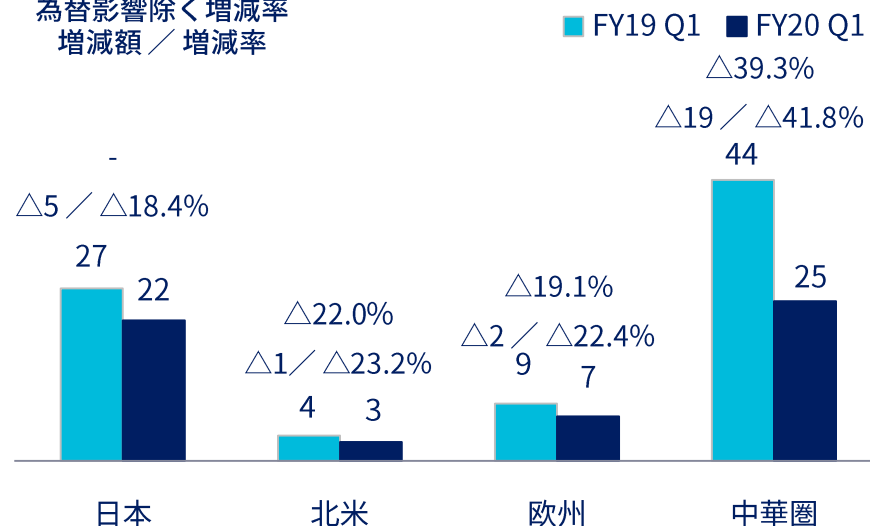


<第1四半期業績>

	FY19 Q1	FY20 Q1	前期比 増減額	増減率
売上高	107	75	△32	△29.5%
為替影響除く増減		78	△29	△27.3%
営業利益	20	2	△18	△88.9%
営業利益率	19.1%	3.0%	-	△16.1ppt

<主要地域別売上高>

為替影響除く増減率
増減額／増減率



売上高

前期比：△32億円 △29.5% (為替影響除く増減 △29億円 △27.3%)

- ◆ 新型コロナウイルスの影響によりホールセール／リテール減収。ECは好調に推移。
- ◆ 主要地域直営店状況：臨時休業により減収。（休業ピーク 日本：全42店舗 中国：54店舗中30店舗）

営業利益

- ◆ 減収影響により減益。

今後の取組み

- ◆ カンパニー体制での迅速な意思決定により以下を実施。
 - ✓マーケティング投資については、好調なEC事業に集中しつつ、イベントキャンセル等による見直しを実施。
 - ✓地域の回復状況を見極め、グローバルレベルでの在庫再配分を実施。
 - ✓20AW商品の発注調整による在庫適正化。
- ◆ ECへの投資に注力及び上海・南京路で旗艦店オープン(6月予定)。

3. 2020年12月期第1四半期 連結経営成績（地域別）

- 地域別連結売上高およびカテゴリー構成
- 連結売上高内訳（地域別）
- チャネル別売上
- 直営店週次売上
- 連結営業利益内訳（地域別）

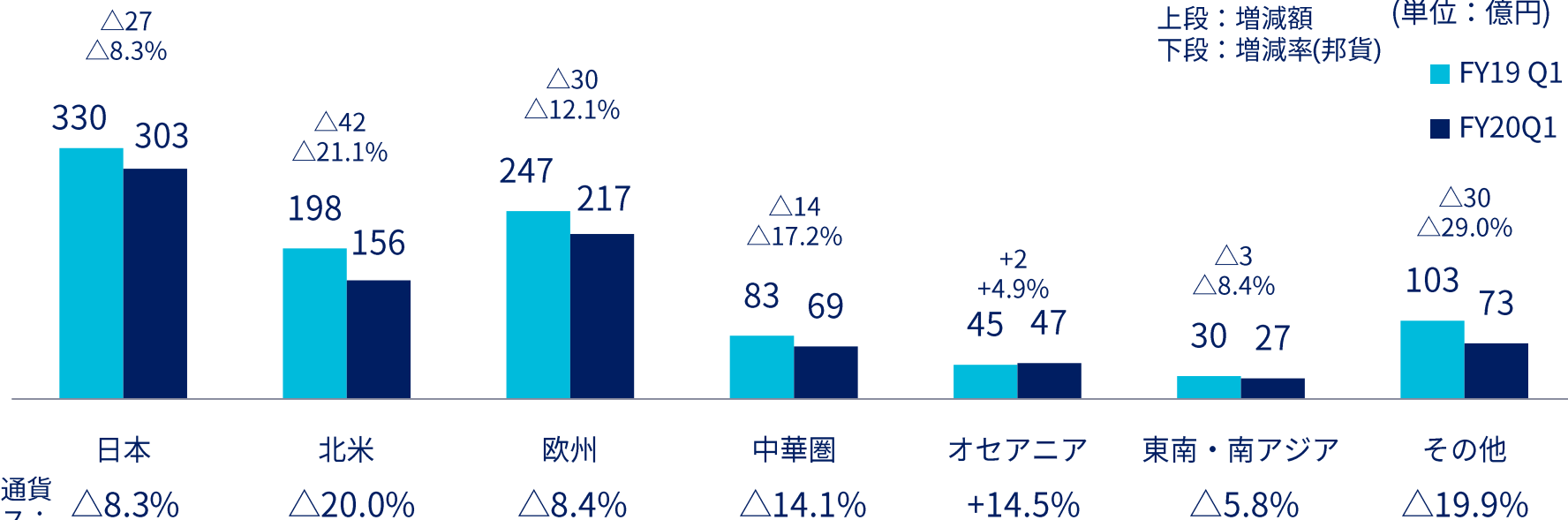
地域別連結売上高及びカテゴリー構成



<売上高>

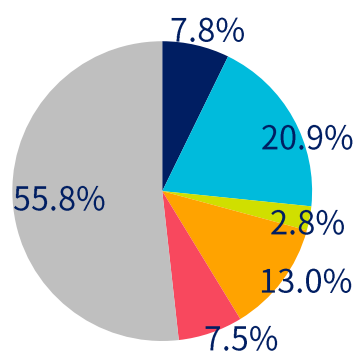
(単位：億円)
上段：増減額
下段：増減率(邦貨)

■ FY19 Q1
■ FY20Q1

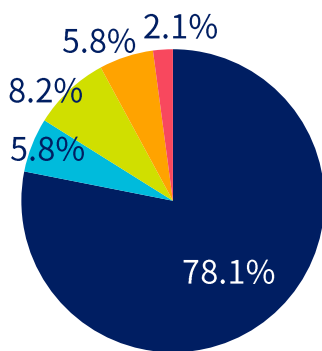


<主要地域別カテゴリー別売上高構成>

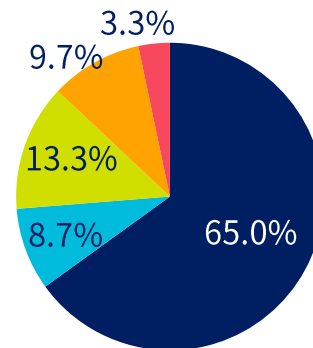
■ P.Run ■ CPS ■ SPS ■ APEQ ■ OT ■ その他



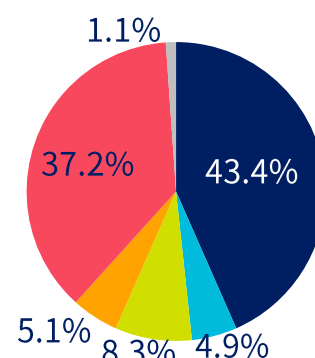
日本



北米



欧州



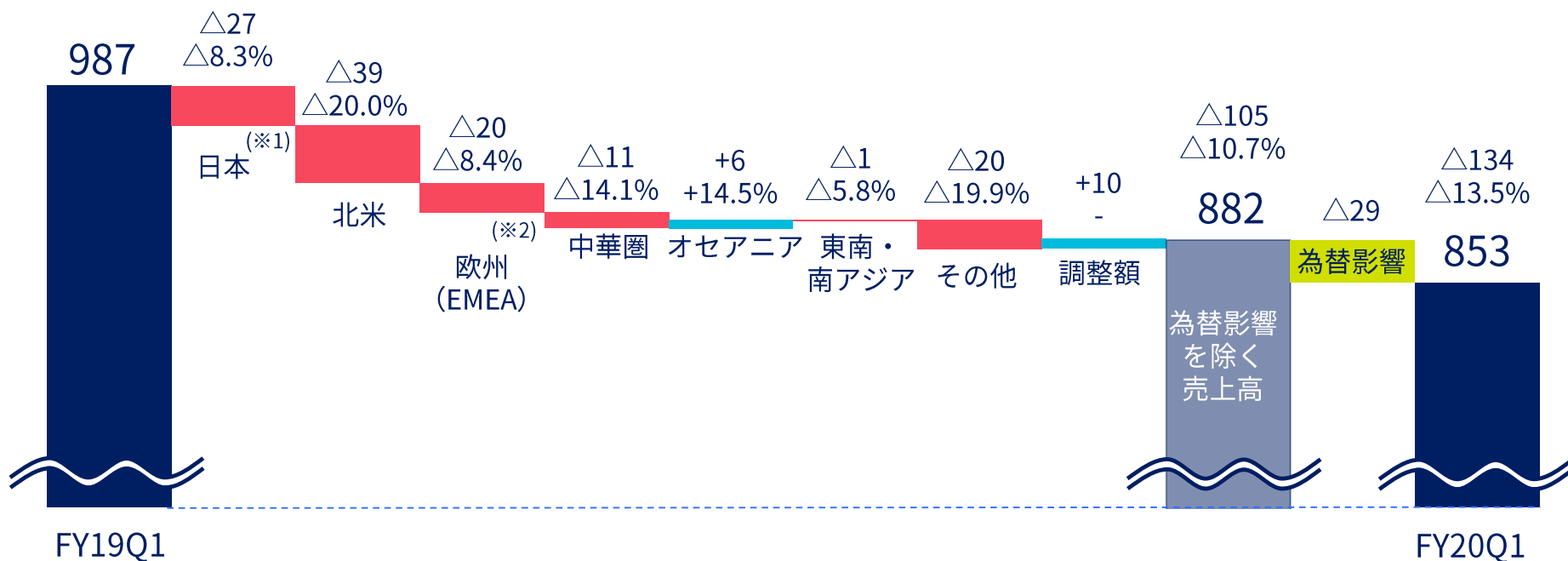
中華圏

連結売上高内訳（地域別）

- ✓ オセアニア地域では2桁成長.
- ✓ ECは前期比57%の増収. ほぼ全ての地域で成長.

上段：増減額
下段：増減率(現地通貨ベース)

(単位：億円)



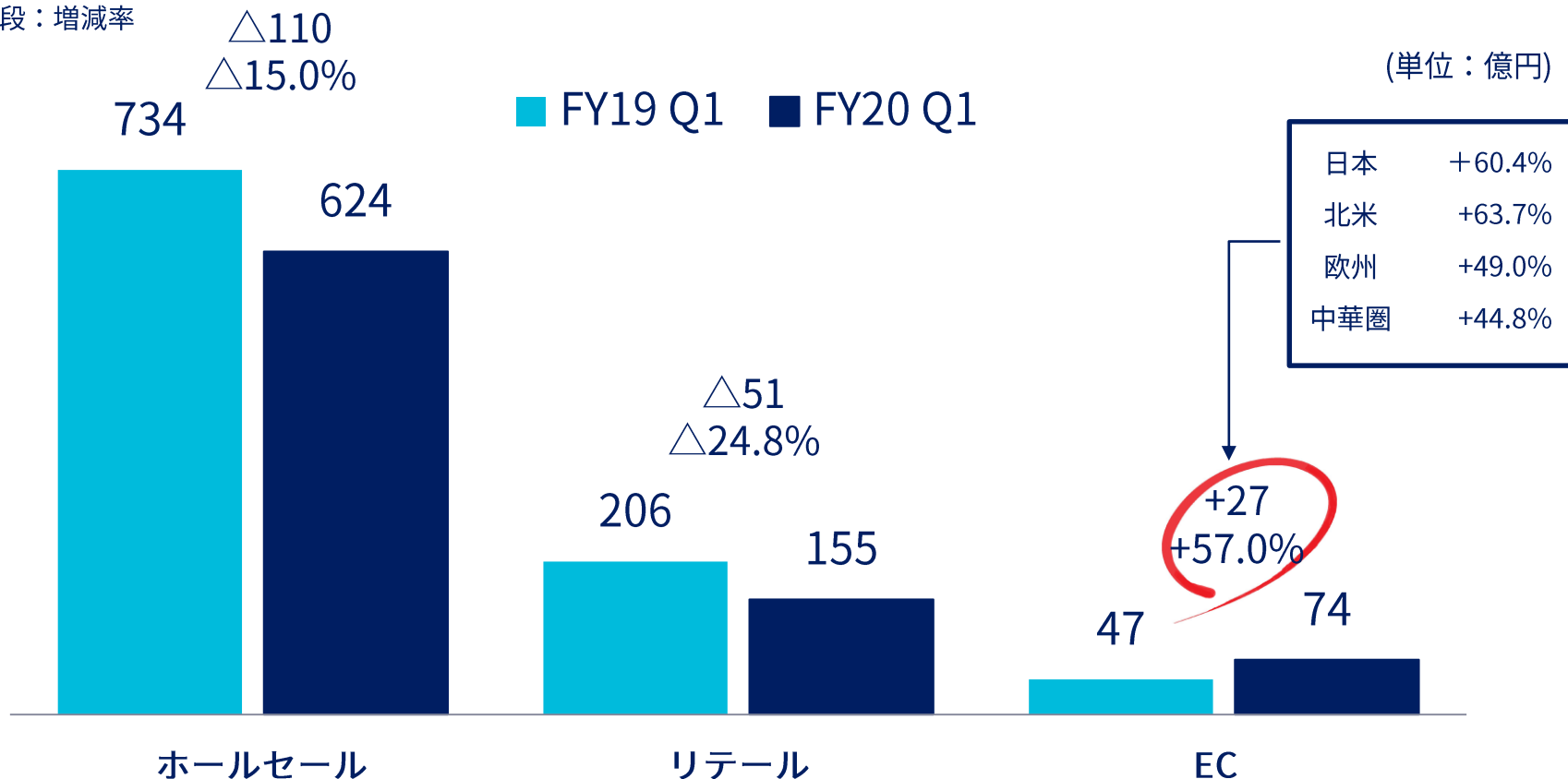
- (※1) 日本は国内から海外（主に海外子会社）への取引を含んでおります。
(※2) 欧州（EMEA）はEUR連結の数値を現地通貨ベースと表記しております。

チャネル別売上高



- ✓ ホールセール及びリテールは都市封鎖等に従い、店舗の臨時休業により減収.
- ✓ ECはほぼ全ての地域で増収.

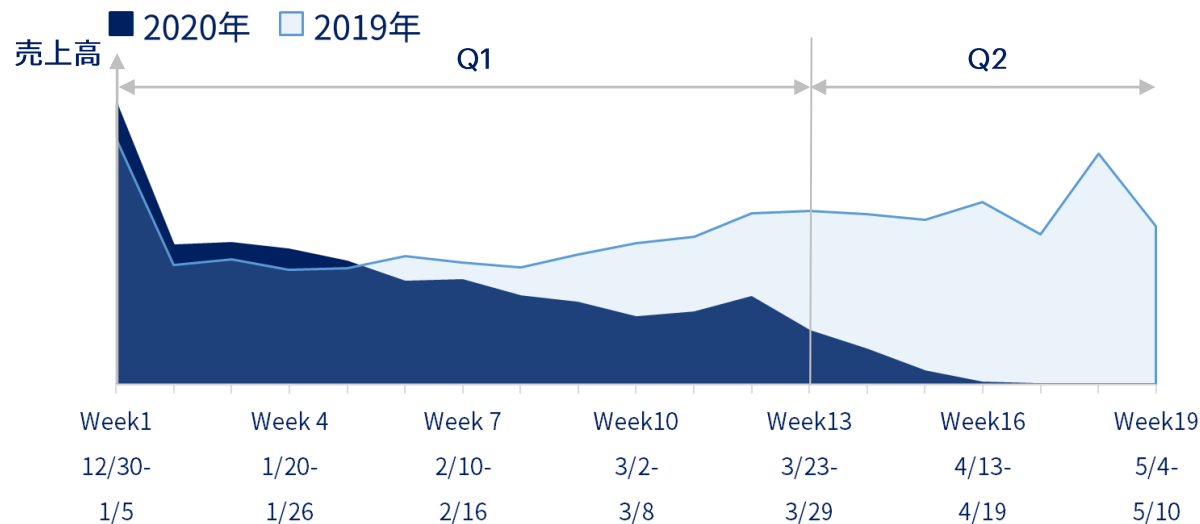
上段：増減額
下段：増減率



※自社ECサイトとマーケットプレイスはECに含み、ホールセールEリテラーはホールセールに含む。

直営店週次売上高推移(2019/12/30-2020/5/10)

日本：直営店舗の臨時休業等を受け、3月下旬より大幅に減少

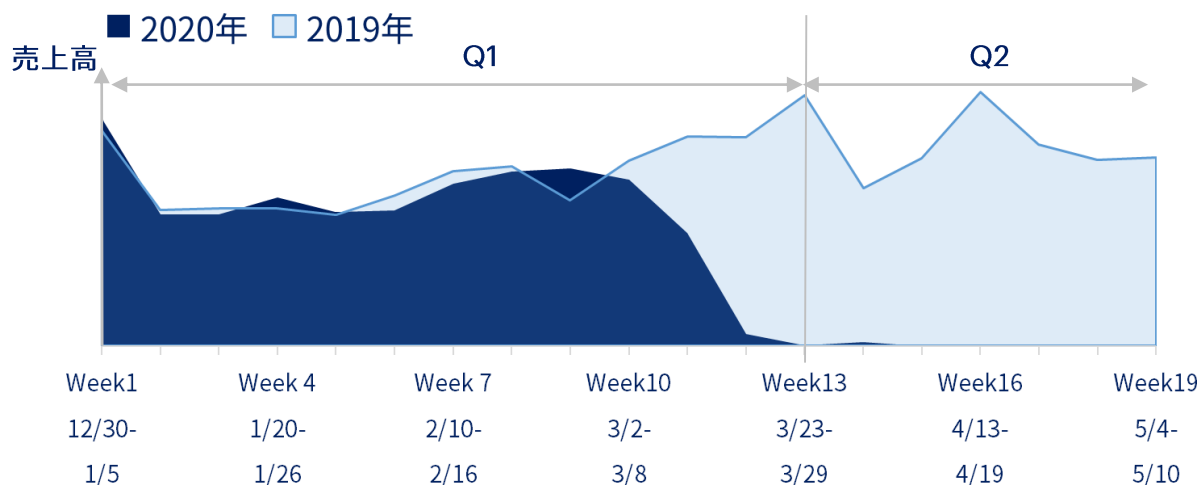


<月別臨時休業店舗数>

	2020年
全店舗数※	157
1月末	0
2月末	0
3月末	0
4月末	157

※店舗数にはASICS及びOT、ASICS WALKING、Haglofsを含む。

米国：各州におけるロックダウンを受け、3月より大幅に減少



<月別臨時休業店舗数>

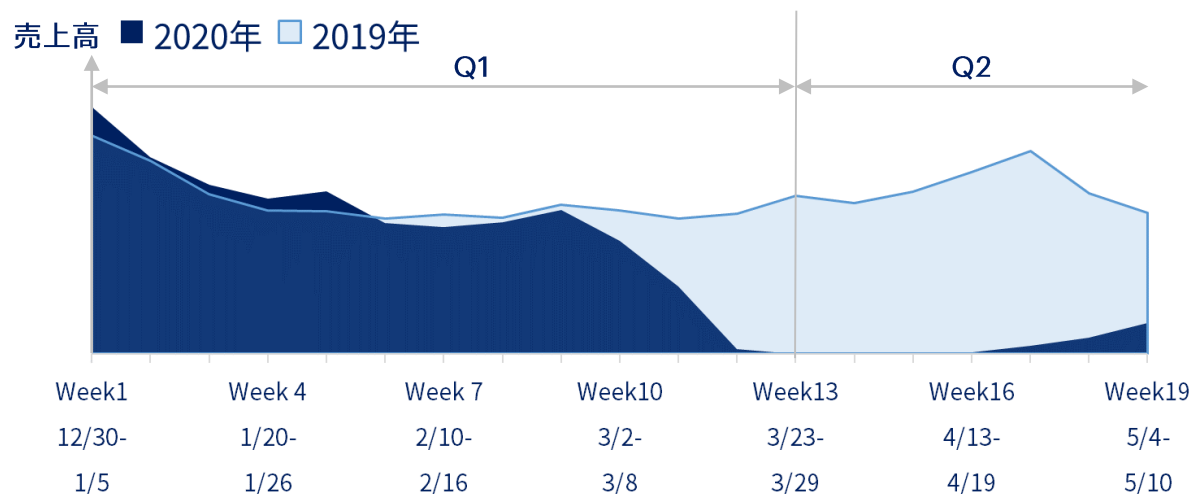
	2020年
全店舗数※	95
1月末	0
2月末	0
3月末	95
4月末	95

※店舗数にはASICS及びOTを含む。

※縦軸の目盛りは地域により異なり、必ずしも同等の売上高を示すものではありません。

直営店週次売上高推移(2019/12/30-2020/5/10)

欧州：4月中旬より一部店舗が営業再開したことにより回復傾向

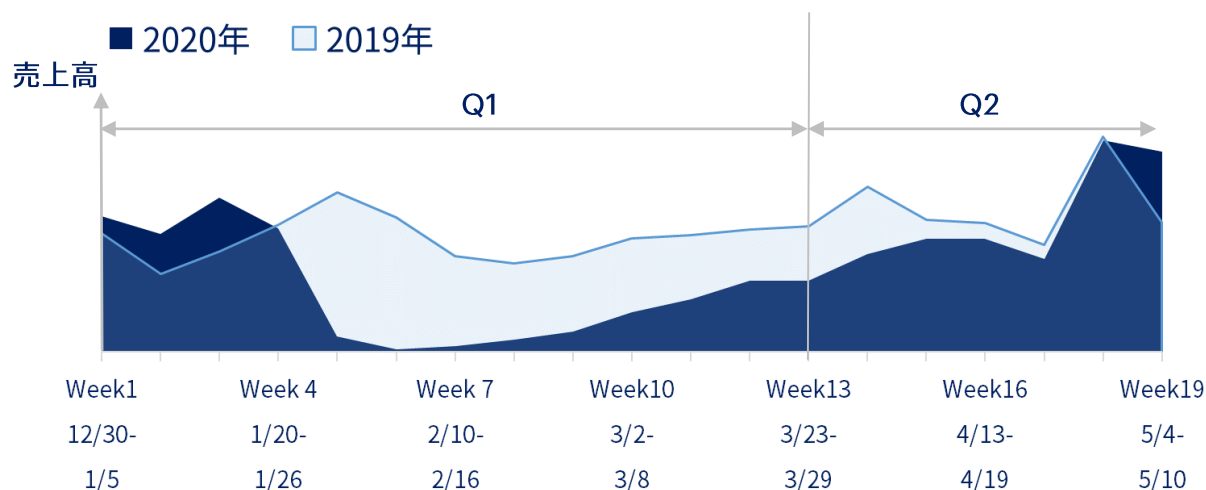


<月別臨時休業店舗数>

	2020年
全店舗数※	198
1月末	0
2月末	0
3月末	198
4月末	198

※店舗数にはASICS及びOTを含む。

中国：3月までは臨時休業等により大幅減少も、5月は昨年を上回る



<月別臨時休業店舗数>

	2020年
全店舗数※	145
1月末	52
2月末	27
3月末	4
4月末	0

※店舗数にはASICS及びOTを含む。

※縦軸の目盛りは地域により異なり、必ずしも同等の売上高を示すものではありません。

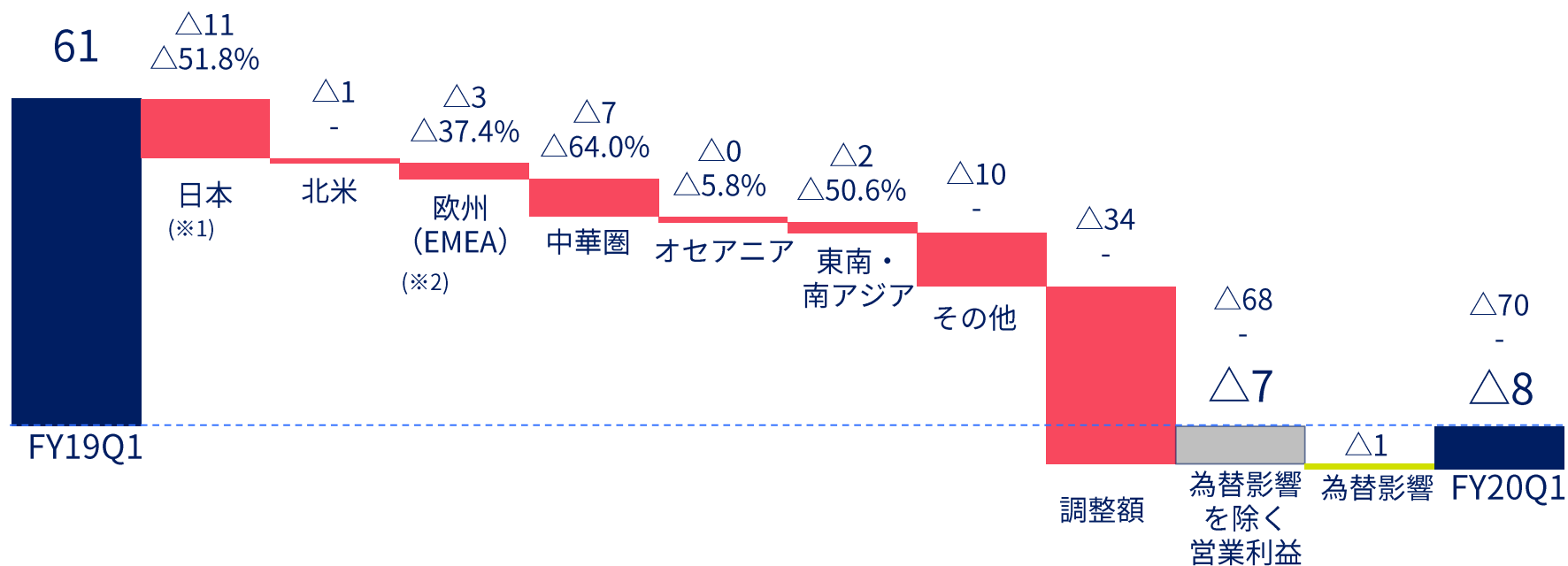
連結営業利益内訳（地域別）



- ✓ ほぼ全ての地域での減収影響に加えて、主に東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の関連費用の一部発生で減益。今後、コストコントロールによる経費低減を図る。

上段：増減額
下段：増減率(現地通貨ベース)

(単位：億円)



(※1) 日本は国内から海外（主に海外子会社）への取引を含んでおります。
(※2) 欧州（EMEA）はEUR連結の数値を現地通貨ベースと表記しております。

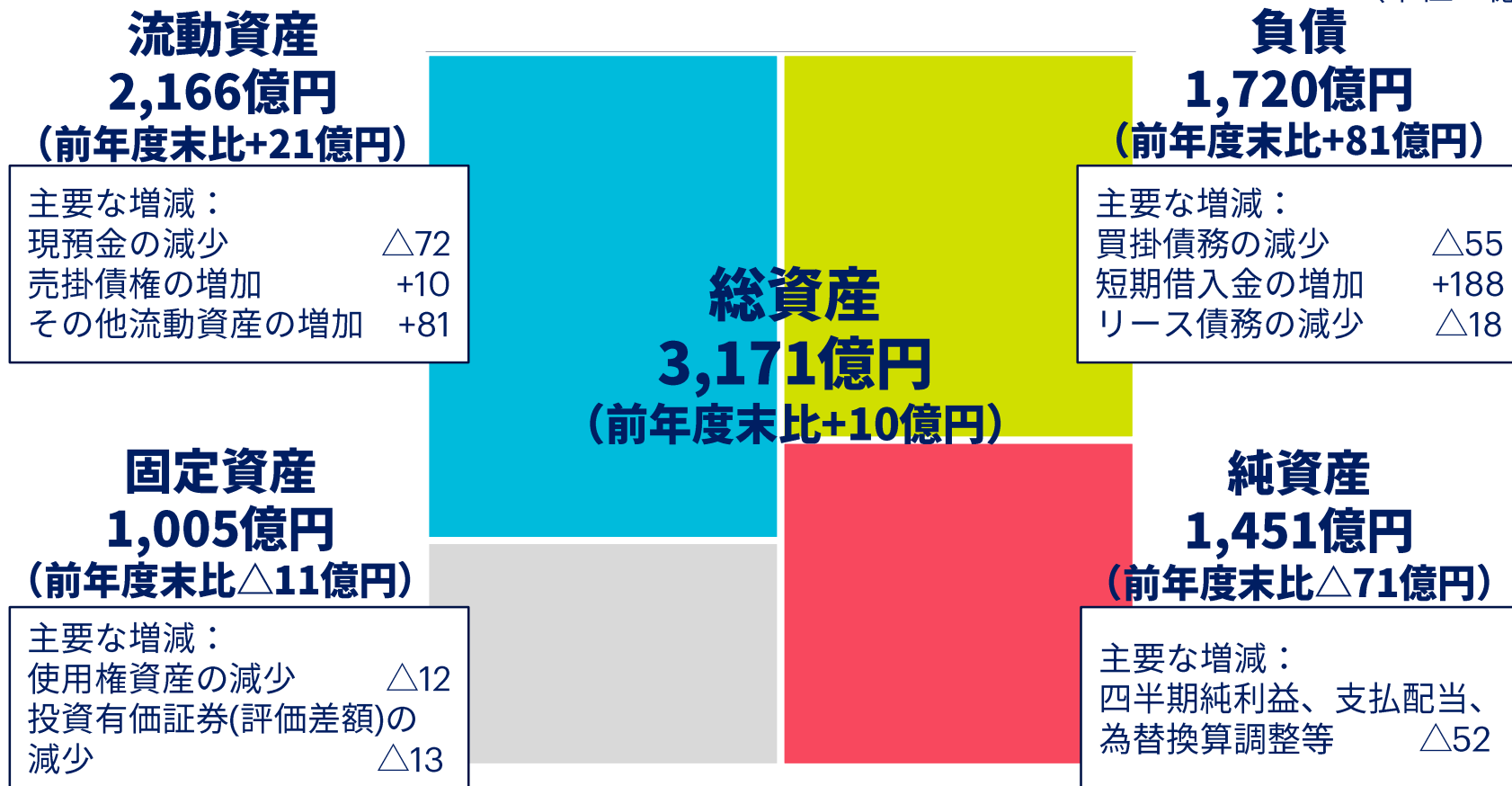
4. 2020年12月期 第1四半期連結財政狀態

— 連結貸借対照表

連結貸借対照表

- ✓ 季節的な要因で運転資本が悪化し、現預金が72億円減少。
- ✓ 当座貸越枠を1,895億円確保しており、短期借入金による資金調達を実行。

(単位：億円)



自己資本比率：45.6%
(前期末：48.0%)

5. 今後の取組み

今後の取組み

取組み	詳細
在庫管理の強化	✓ カテゴリーヘッドおよび販売子会社と連携し、販売予測の変化に応じた仕入抑制と発注キャンセルを実行。 ✓ マーチャンダイジング（MD）計画を見直し、販売時期を変更。
ECの拡大	✓ ホールセール、リテールの臨時休業により、リソースをECに重点配分。 ✓ 自社ECのみならずマーケットプレイスやEリテラーとの取組みを強化。 ✓ ランニングエコシステムの早期確立。
コストコントロール	✓ コストコントロールを強化し、販管費を抑制。 ✓ 選択と集中の厳格化によるマーケティング費用の削減。
キャッシュマネジメント	✓ 手許流動性の拡大（現在1,895億円の当座貸越枠あり）。 ✓ グローバルCMSによりグループ資金を有効活用。
感染防止活動	✓ 原則、全従業員の出勤を見合わせ、在宅勤務・自宅待機を支援。 ✓ 医療防護服の代替品を医療機関に寄贈。

6. 補足

主な予定

インベストメントデイ中止	6月		東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の延期により開催中止
2020年12月期第2四半期決算	8月13日 8月14日	15:00 15:00	決算発表 決算説明会 機関投資家、アナリスト、報道機関向け
インベストメントデイ	未定 10月頃		テーマ：未定
2020年12月期第3四半期決算	11月6日	15:00 15:30	決算発表 電話会議 機関投資家、アナリスト、報道機関向け
2020年12月期決算	2021年2月12日 2021年2月15日		決算発表 決算説明会 機関投資家、アナリスト、報道機関向け

用語	意味
パフォーマンスランニング	ランナーが快適に走ることができ、優れたパフォーマンスを発揮できるように機能性をもたせたランニングシューズ。ランナーの走り方や走力などに応じたさまざまなランニングシューズを展開。
スポーツスタイル	ランニングやトレーニングをライフスタイルに取り入れ楽しむファンランナー向けのランニングシューズやデザイン性に優れカジュアルにスニーカーとして使用できるシューズの総称。アシックスタイガー含む。
コアパフォーマンススポーツ	陸上競技、テニス、バレーボールなどの競技スポーツ用のシューズ。スポーツ選手が高いパフォーマンスを発揮できるように優れた機能性を備える。
<u>オニツカタイガー</u>	社名をアシックスとする1977年まで、かつて競技用だったシューズを、2002年に洗練されたスタイルを求めてスポーティなファッションブランドとして復刻。
<u>ウォーキングシューズ</u>	スポーツシューズづくりと同様に、日常生活での履きやすさや歩きやすさを追求したライフスタイルシューズ。
<u>ワーキングシューズ</u>	アシックススポーツ工学研究所による研究知見を生かした、建設、運輸、医療などの現場での立ち仕事や現場作業向けのシューズ。
<u>ホグロフス</u>	ハイパフォーマンスかつサステナブルなアウトドアギアを提供するブランド。2010年以降アシックスグループ。
<u>ASICS Runkeeper</u>	スマートフォン端末のGPSにより、ランニング、ウォーキング、サイクリングなどの運動を追跡・記録するフィットネス・トラッキング・アプリ。
<u>OneASICS</u>	さまざまな会員限定特典を提供するアシックスのメンバーシッププログラム。
Race Roster (レースロースター)	北米を中心に展開するレース登録プラットフォーム。ランナーがレースに申し込みをする際のウェブページやレース結果照会ページ等の提供を行う。